

第1回習志野市先導的官民連携支援事業協議会

議事録

開催日時：平成26年10月31日（金）15時00分～
場 所：生涯学習地区センター ゆうゆう館

1. 出席者

委員 □朝倉委員 □奥田委員 ■佐々木委員 ■田島委員 □山本委員 ■古波津委員
■馬場委員（代理 大我氏）

事務局 習志野市財政部資産管理室・吉川室長、資産管理課・岡田主幹、青野、企画政策課 小田
社会教育課 忍係長

2. 対象施設視察

藤崎図書館→あづまこども会館→屋敷公民館→勤労会館→徒歩→中央公園（東側）→徒歩→大久保公民館・市民会館、大久保図書館→徒歩→中央公園（西側）→生涯学習地区センターゆうゆう館

3. 議事

（1）委員長・副委員長の選出

委員長に田島則行氏、副委員長に奥田早希子氏が選出され、承認された。

（2）これまでの検討経緯

資産管理課岡田主幹から、基本構想（素案）にて検討の経緯を説明。

（3）本年度の取組内容説明

- 吉川室長から、本年度の取組について説明を行い、引き続きUDS中川社長より説明を行った。
- 今後の論点として、多世代で一緒に議論するためには、公園と施設の関係を深めるには、まちづくりとして有意義な事業とするには、どのような事業を目指すべきかを協議した。
- ワークショップの進め方、及び10月29日のワークショップ報告

（4）本協議会の目的と各委員の紹介及び役割

- 本協議会の目的は、ワークショップで出てきたものを協議会で検討して、案に反映させ、協議会でチェックをする、という位置づけである。
- 各委員の紹介、自己紹介を行った。

（5）意見交換

- 公園と住宅地、公共施設の存在経緯について
吉川室長：庁内連絡会議を開催し、各課協力してやっていくという考えを作っている。
古波津委員：今まで出てきている意見、その具体的な意見はどうだったのか？
岡田主幹：統廃合に対しては、意見が多い。10月29日のワークショップは建設的な議

論がなされた。

吉川室長：これまで市民説明会を数多く行ってきている。昨年の12月のアンケートでは、7割から8割の人は賛成であり。総論では市民にご理解いただいている。

佐々木委員：公共へのメリットが出るように。事例としては、千代田の3331などはこの仕組みが考えられる。

中川社長：使い方や運営から検討していくので、手法についてはその後の検討になる。

吉川室長：PFIをやると地元企業が参加できないという批判がある。地元の企業に対して、地域の事業者が手を組んでもできるということを説明している。

田島委員長：運営の仕組みを変えなければ、地域は活発化しない。市民が主体になるということがとても大事。

大我委員代理：公共施設の床面積の議論はされているが、中央公園の活用案が少ない。

中川社長：公園と施設の一体性は、物理的というよりも運営の部分で非常に重要である。

田島委員長：市民およびNPOとの協働ということでも、公園の管理などが考えられる。ここまで、公園と施設が密接にあるところはあまりないので、素晴らしい事例となれる可能性を秘めている。

田島委員長：スケジュールを確認すると、協議会の役割が分かる。ワークショップ、アンケートの報告を受けつつ、もっと付け足す部分、修正する部分を言っていくという役割でよいか。

中川社長：今の趣旨で設定している。1月14日に最終報告会を予定しているので、それまでにコンセプト構築をしていく。協議会のメンバーには、実務的なアドバイスをお願いしたい。

岡田主幹：統廃合で遠くなる人に対して、楽しく出かけるにはどうしたらいいか、ということを検討したい。街への波及効果を意識している。

田島委員長：1月14日の発表は、ワークショップ参加者からやってもらいたい。一人でも前向きな市民が増えてくれるといいと思う。

佐々木委員：リノベーションなのか、新築なのかを検討する判断は早めにやった方がいいのではないかと思う。すでに、判断されていてリノベ案になっているのか、新築案も残っているのか、それによってSPCの作り方が、誰が参加するかが変わってくる。そのためには、技術的に本来ある姿を探るべきではないか。

吉川室長：リノベーションをするための、判断基準をどうするかが課題である。

田島委員長：全体のスケジュールの考え方を共有した方がいい。来年以降のスケジュールについて。リノベーションにするかどうかと、そのあとの事業方法については、ここで結論を出すのか、次の年度でいいのか？

吉川室長：今年度中に方向性を出したい。

田島委員長：事業の構造について、どこが、リスクとお金を負担するかということを考える必要がある。UDSにやってもらいたい。

中川社長：皆様のお知恵を借りながらやっていきたい。

吉川室長：今年度やるには予算的にも時間的にも厳しいので、どのように進めるかの方向性は明らかにして、来年度前半で詳細に行う。

田島委員長：一通り、課題を洗い出すことはできた。

中川社長：事業の方向性を出していくことが大事だということが分かったので、情報を整理して検討していきたい。

(6) 今後のスケジュールと第2回及び第3回協議会開催日の決定